

2012年（平成24年）12月2日（日曜日）

### 釈迦内小で

# 県内5校が活動発表

## 「ひまわりサミット+2」開幕

### 向陽音頭 民泊で交流深める

大館市の釈迦内サンフラワープロジェクト（日景賢悟委員長）と市教委主催の「ひまわりサミット+2」が1日、釈迦内小で始まり、ヒマワリや特産品を核に地域・学校の活性化に取り組んでいる県内5小学校が活動報告した。参加した5、6年生18人は民家9軒に分宿し、交流を深めた。



県教委が推進する「地1校」の構築を目指して活1学校が一堂に集まって地域の元気の源となる学動している市内外の5小1実践交流し、活動を充実させるのが目的。「友情の花ネットワー」を構築し、顔の見える付き合いをしてもらう狙いもある。県が後援して初めて企画した。

5校は同市の釈迦内と長木小の児童が育てたエゾタンポポを他校の児童にプレゼント（釈迦内小で）

本、能代市の鶴形、由利本荘市の矢島、横手市の浅舞。ヒマワリを栽培している釈迦内、矢島、浅舞の「ヒマワリ3校」にソバ栽培に取り組んでいる鶴形、エゾタンポポを育てている長木の2校を加えて「ひまわりサミット+2」とした。地域を挙げてヒマワリ

油作りに取り組んでいる釈迦内サンフラワープロジェクト実行副委員長の五十嵐経・釈迦内校長は「子どもと一緒に大人も汗を流し、喜びを分かち合おうとプロジェクトを立ち上げた。活動を通して大人の素敵な部分を見せることが子どもの未来につながる。将来にわたって顔の見える付き合いができることを期待する」と挨拶した。続いて5校が活動発表。長木小は絶滅の危機にひんしているエゾタンポポの増殖活動について説明した。外来種であるセイヨウタンポポが増え

た影響で激減していると、2年前からタンポポを採取し育てる作業を実施してきた。発表者は「市内で失われつつあるものの一つであるエゾタンポポを守るために始めた活動。活動を通じてたくさんの人とのつながりが生まれた。これからも人との関係を築いていきたい」とし、参加者した児童に自分たちで育てたエゾタンポポの鉢をプレゼントした。釈迦内サンフラワープロジェクトの今年の活動報告に続き、釈迦内出身の歌手さくら喜子さんが作詞した「釈迦内向陽音頭」が初めて披露され、児童らが合唱した。釈迦内公民館ではゲーム、会食、入浴をして交流した。また、違う学校の児童と釈迦内、長木の民家9軒に分かれて泊まり、思い出作りを楽しんだ。最終日の2日は釈迦内小で起きたんぼ鍋づくりと会食を予定している。